

平成27年度 高知県立大学大学院 看護学研究科 がん看護学領域特別講義

看護学研究科がん看護学領域では、緩和ケア内科の医師としてご活躍されている 原 一平 先生を講師としてお招きし、『在宅医療で活用される最新の疼痛緩和薬』と題して特別講義を開催いたします。

本講義は、看護学研究科の院生、看護学部の教員、がん看護学領域の修了生他、がん看護に関心のある看護職の方を対象に公開し、今後の皆さんの活動の参考にしていただければと願っています。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。



テーマ：在宅医療で活用される最新の疼痛緩和薬

講師：原 一平 先生

高知医療センター 緩和ケア内科 科長

日時：平成28年2月14日（日） 10：00～11：30

場所：高知県立大学池キャンパス 看護学部棟 C310



【お問い合わせ】

藤田研究室（看護学部棟C301）
E-mail: fujita@cc.u-kochi.ac.jp
Tel:088-847-8704



QRコード読み取り機能付き携帯電話で読み取り、メールを送信してください。

看護学研究科：第2回がん看護学領域特別講義が開催されました。

テーマ	在宅医療で活用される最新の疼痛緩和薬
講演者・内容	高知医療センター 緩和ケア内科 科長 原 一平 先生
日時	平成 28 年 2 月 14 日（日） 10:00～11:30
場所	高知県立大学 池キャンパス 看護学部棟 C310
参加者	大学院生 10 名（がん看護学領域 4 名）、教員 9 名

平成 28 年 2 月 14 日、高知医療センター緩和ケア内科の原一平先生を講師としてお迎えし、「在宅医療で活用される最新の疼痛緩和薬」についてご講義いただきました。



<講師：原 一平 先生>

講義では、がん性疼痛と薬物療法についての基本的な考え方、オピオイドの特徴やオピオイドスイッチング、副作用対策などの疼痛緩和の知識についてご講義いただきました。疼痛緩和薬に関しては、主にタペンタドールやメサドン、フェンタニル製剤のレスキュードーズについて、使用方法や注意点など詳しく説明していただきました。

また、安全なオピオイドスイッチングや効果的なレスキュードーズの使用方法について、先生の豊富な経験をもとに、丁寧に説明していただきました。タペンタドールは、換算比が確立していないことから重篤な副作用が生じる可能性があるため、時期を見極めて安全なスイッチングを行う必要や、外来で効果的にフェンタニル製剤のレスキュードーズを導入することで、不要な疼痛緩和目的の入院をなくすことにつながるなど、講義を通して、在宅がん看護に生かせる実践的な学びを得ることができました。



<講義の様子>

また、半減期も長く重篤な副作用が生じる可能性があるメサドンの使用について、普及やリスク管理に課題がある現状や、在宅医療においては看護師のリスク管理や家族への指導が重要になることが説明され、医師と訪問看護師との連携の必要性など、在宅における看護師の役割についても共有することができました。

受講した院生から、以下の学びがあげられました。

- ◇ 患者にとって経済的にも疼痛コントロールの観点からもメリットになる薬剤があること、一方でその容量調整や副作用に対応できる医療者がいることが両輪となって初めて、患者にとって利益となる疼痛コントロールにつながることを学んだ。CNS は薬剤

のメリット・デメリットを理解した上で施設・地域・在宅の人たちと知識を共有し、開始時から現場の問題や疑問をフォローする役割や医師との調整役割を担うことで、課題に取り組むことができると考えた。

- ☆ 今まで臨床では使用したことのない新しい医療用麻薬について詳しく学ぶことができた。これからも新しい医療用麻薬について知識を深めていく必要があると感じた。
- ☆ 先生の経験に基づくオピオイドスイッチングの比率や薬剤調整について聞くことができ、実践に即した学びを得ることができた。看護師が副作用マネジメントすることの大切さを理解することができた。

参加した院生は、原先生の講義を通して、在宅医療を受けるがん患者の疼痛緩和におけるがん看護専門看護師の役割や実践を考える貴重な機会となりました。